

## 『信頼関係の回復』～あなたは信じる事ができますか～ Iヨハネ2:28～29

神様が私達に与えて下さっている素晴らしいもの。それは「信頼」できる心です。聖書が一番大切にしている事は「愛」です。「愛」と「信頼」には近いものがあります。愛する事は赦す事、それが出来ているかのバロメーターはその人の事を信頼出来ているかどうかです。私たちは様々な人と関わっておりますが、お互いに信頼関係を持っているでしょうか？信頼関係を築くにはどのようにしなければいでしょうか？信頼関係の構成は私たちが生まれて半年から1歳半に成されると言われています。その間に親や周囲から子への関係が重要なのであります。親からの愛とはどのようなものでしょうか。①良い環境を与える。②衣食を与える。③困ったときに差し伸べる手であります。これを通して、親や周囲から愛されている事を学んでいきます。これは神様と私たちの関係においても同様です。私たちは愛された事を通して愛する事ができます。信頼された事によって信頼する事ができます。これらの事は歴史からも学ぶ事ができます。ローマ皇帝ネロは悪い皇帝・暴君として有名ですが、彼は最初はとても良い皇帝でした。しかし彼は人を信頼する事をしなかった為、いつも国民から信頼されていない不安を持ち続け、結果自らを滅ぼすような歩みをしてしまいました。ネロとは対照にアウグスティヌスはクリスチャンを大切に、自分もクリスチャンになり全ての人を愛しました。彼は信頼する事をしたのです。それによってローマはネロの時代の何倍も栄えました。この2人を見てもわかるように、人が人を信頼できないと①信じられなくなり②疑います。③疑いを隠し自らに、相手にうそ(偽証)をつきます。④しかしばれて責任転嫁をします。⑤そうなると精神的に不安定に陥ります⑥人に頼れないために我力に頼ります⑦結果、狂った共依存となります。同じ思いを持った人が集まり、抜け出せなくなります。私たちはそうなる前に赦す事をしなければなりません。赦し、信頼する事は何よりも私達自身の為なのです。イエス様は多くの民を愛し、信頼しました。今を生きる私達にも同じ愛を流して下さいます。私達が神と人との信頼関係を回復し、信じる人生を送るためには**①キリストの愛に耳を傾けましょう**。私たちはありのまま愛されている事を深く知らなければなりません。知る事によって、赦せる、愛せる人になります。**②初めの愛の内にとどまる**。十字架の愛の内にとどまる事により、憎んだり、無関心となる事の罪深さを知り、神様の愛を受け続けるようになります。**③失望を取り去る**。神様は失望に終わらせる方ではありません。教会はこれらのことを神の家族と共に体験するところです。世の中では『人は変わらない』と決め付けてしまいますが、教会は自らを変えた人を(荒削りでも)見ることが出来ます。与えられた環境に感謝をして信頼関係を取り戻しましょう。